

学位被授与者氏名	中村 朋子（なかむら ともこ）
論文題目	目標志向性が看護学生の実習行動に及ぼす影響について
論文審査結果の要旨	<p>本研究は達成目標理論にもとづいて看護学生の目標志向性を測定し、それが実習行動にどのように影響するかを検討したものであるが、達成目標理論を援用した看護場面の研究そのものがほとんどなかったことに加えて、目標志向性の下位概念を独立したものとみるのではなく相補的機能に着目した点で、オリジナリティのある重要な研究と評価することができる。</p> <p>インタビュー調査によって看護実習の行動を測定する項目を精選していることや、クラスタ分析によって目標志向性の相補的機能の分析を試みた点なども、適切で丁寧な研究方法を実施しているといえる。予測していたような関連のある実習行動をそれほど多く見いだしたわけではないが、看護の現場に対しても重要な示唆を与える調査結果を得ることができた。特に、これまでの研究では否定的な影響ばかり指摘されてきた「遂行接近目標」が、今回の研究では「実習での指導の認識、将来への展望」と正の関連があることを見出したことは注目すべきことである。</p> <p>全体として修士論文として十分な研究成果であると認めることができる。</p> <p>平成 29 年 2 月 9 日に、北九州市立大学北方キャンパス 4 号館 4-301 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。</p>